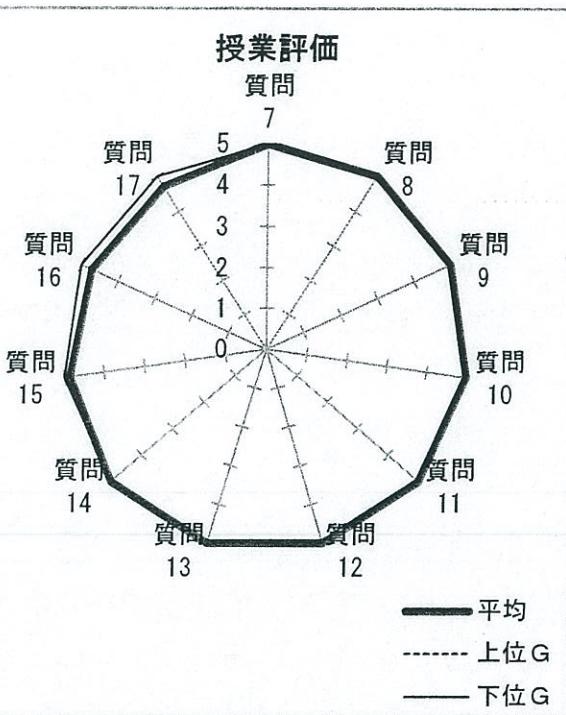


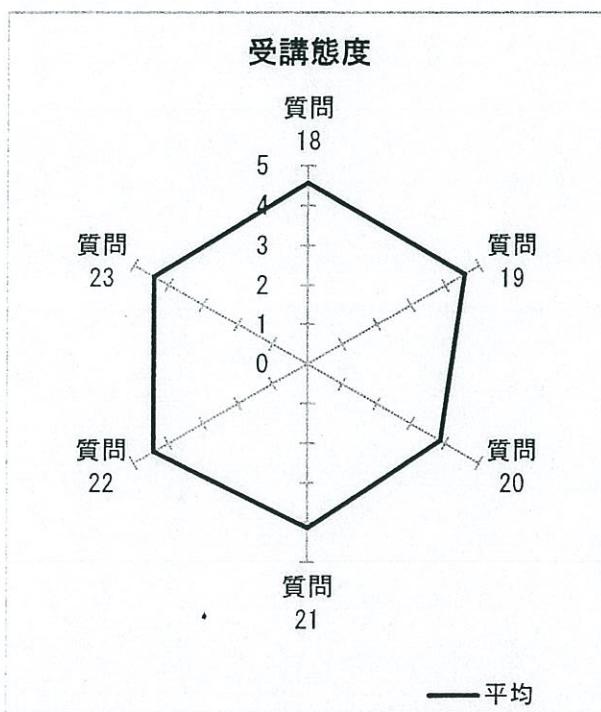
科目コード 202 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 石井 奈緒 地域文化研究



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問 10	5.0	5.0	5.0
質問 11	5.0	5.0	5.0
質問 12	5.0	5.0	5.0
質問 13	5.0	5.0	5.0
質問 14	5.0	5.0	5.0
質問 15	4.9	4.8	5.0
質問 16	4.7	4.7	5.0
質問 17	4.7	4.7	5.0
平均	4.9	4.9	5.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問 18	4.6
質問 19	4.6
質問 20	3.9
質問 21	4.1
質問 22	4.4
質問 23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	石井 奈緒	地域文化研究	7

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

地域文化研究の配当年次は3年生であり、2018年度の受講生は4年生が1名、3年生が6名であった。このうち2名が留学生で、1年次から入学した3年生と3年次からの編入した4年生であった。この科目では、前半は東アジアの低出生率に関する国立社会保障・人口問題研究所発行の学術論文2本をテキストとし、各受講生が論文を分担してパワーポイント作成し、その要約と関連する独自に調べたデータや資料を発表した。後半は厚生労働省が毎年実施している政策セミナーからプレゼンを選択し、その発表原稿とパワーポイント資料をもとに、受講者各自がリメイクして、プレゼンすることとした。今年選択したのは「多様化する女性のライフコースと社会保障」である。

2017年度までは受講者が2018年度の4、5倍であったため、これらの作業はグループ単位で行っていた。2018年度は時間割の関係か受講者が少なかったため、個人単位での発表となった。結果として、個人単位の方が、個人の努力がダイレクトに結果につながるため、科目担当者のほかの科目のグループワークでは、あまり積極的に参加しないような受講生であっても、参加態度はおしなべて真面目であった。

データーに関していえば、受講態度の自己評価が高いグループで質問15、16、17に対する評価が低いため、難易度の高い教材であっても科目担当者が補助的にできるだけわかりやすく説明し、受講者の興味や関心、意欲を引き出すよう努力したい。

II. 2019年度に向けての取り組み

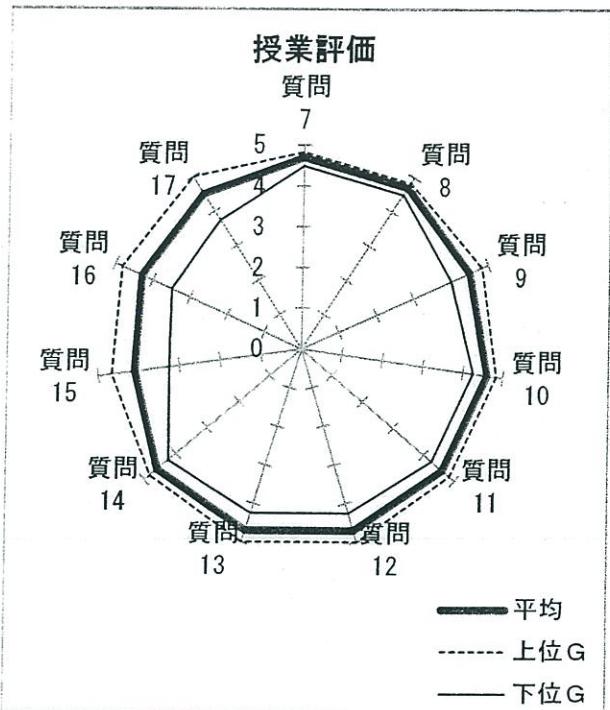
2019年度担当予定科目名：地域文化研究

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度はどの程度の受講者がいるか不明であるが、教材への取り組みがグループ単位であっても個人単位であっても、個々人の能力がいかんなく發揮できるような指導を行いたい。

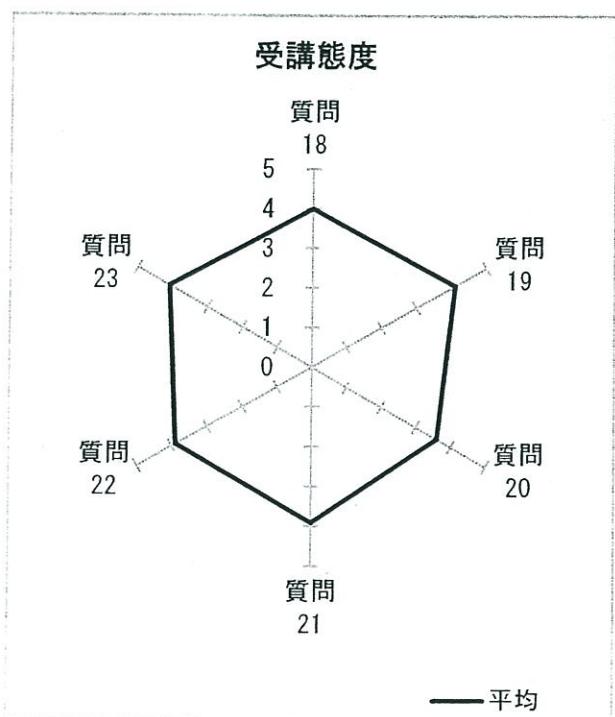
科目コード 205 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 黒木 香 古典文学講義 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.5
質問 8	4.7	4.8	4.5
質問 9	4.5	4.8	4.0
質問10	4.6	4.8	4.3
質問11	4.6	4.8	4.3
質問12	4.7	5.0	4.3
質問13	4.7	5.0	4.3
質問14	4.6	4.8	4.3
質問15	4.1	4.7	3.3
質問16	4.3	4.8	3.5
質問17	4.5	5.0	3.8
平均	4.5	4.9	4.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.0
質問19	4.1
質問20	3.6
質問21	3.9
質問22	3.9
質問23	4.1
平均	3.9

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	黒木 香	古典文学講義 I	11名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

耐震化工事のため、2018年4月より10月まで、本学図書館の古典文学関連図書所蔵する部分が閉鎖された。基本的な図書のみは他の場所に移動させたが、関連図書のほとんどを見ることが困難になり、受講生は配布プリント以外に作品の内容を詳細に知ることがむずかしかったのは、例年とは大きく異なる。そのため、授業内で扱った作品についての自発的な読みを行ったり、課題を出すことによる作品読解を進めることができにくかった。

また、個人的な問題だが、黒木が歩行困難なため教室内の移動がむずかしく、同じ場所に座って講義せざるを得ない状況にあった。受講生一人一人の側に近付き理解を確認できなかつたのは申し訳なかった。

古典文学作品についての講義であるためか、質問15「授業を理解できたか」は上位グループと下位グループとの間に最も差が出た。質問16「興味・関心・意欲を引き出したか」や質問17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」も差があり、もともと古典に興味がない受講生の意欲を引き出し、高めるには至らなかつたということになる。

受講態度に関する質問18～23はいずれも平均値より低く、一方的な講義になってしまったと言える。

II. 2019年度に向けての取り組み

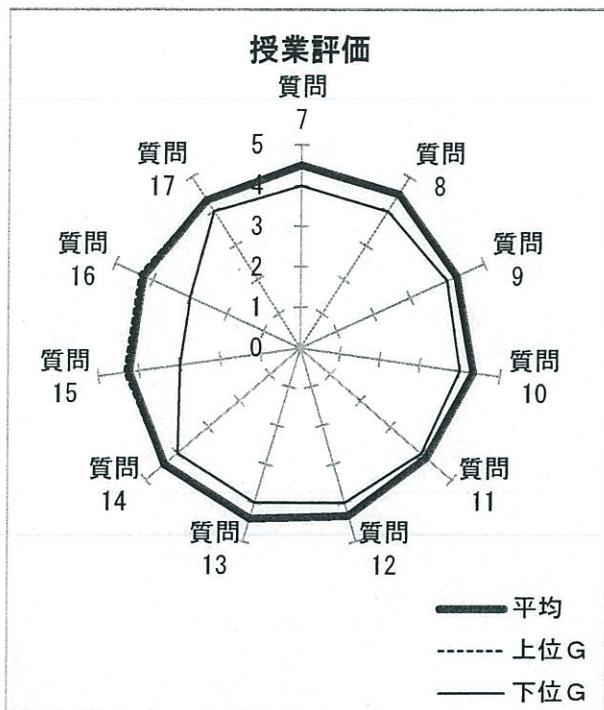
2019年度担当予定科目名：古典文学講義 I

図書館も通常通り専門書を見られるようになったので、課題を更に増やし、自らの視点で作品を読み取る時間を作りたい。

事前に取りあげる作品や場面の注釈書を印刷配布し、ワークシートも作成しているが、各自が記入するにとどまっている。講義に偏りがちな点を反省し、意見が対立するような視点を取りあげ、議論になるようにしたい。

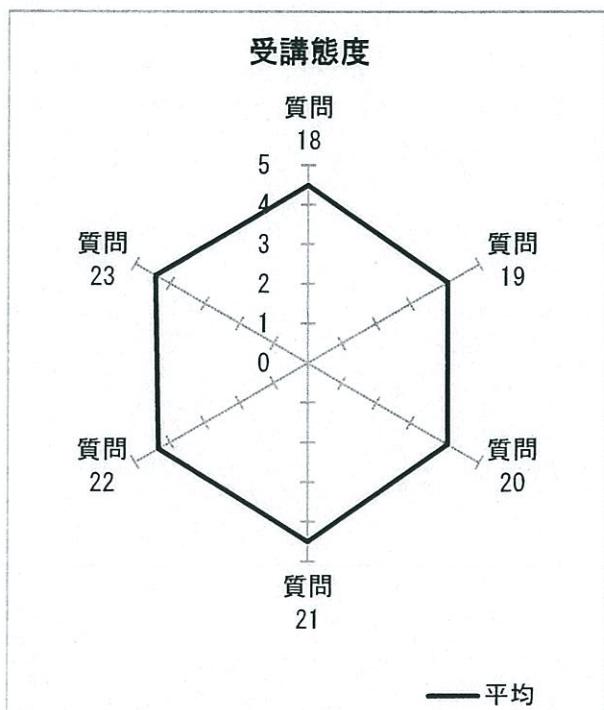
科目コード 206 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 黒木 香 社会を読み、他者と向き合うためにB



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	4.0
質問 8	4.5	4.5	4.0
質問 9	4.3	4.3	4.0
質問10	4.3	4.4	4.0
質問11	4.2	4.2	4.0
質問12	4.3	4.4	4.0
質問13	4.4	4.5	4.0
質問14	4.4	4.5	4.0
質問15	4.3	4.4	3.0
質問16	4.3	4.4	3.0
質問17	4.3	4.4	4.0
平均	4.3	4.4	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.1
質問20	4.1
質問21	4.5
質問22	4.3
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	黒木 香	社会を読み、他者と向き合うためにB	13名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

国際文化・文学部の学部共通プログラム科目の1つで、グループワークにより調査、研究、発表を行う科目で、2年生は必修である。2年次に続き受講する3年生は2年生に比べるとグループをリードし、活動にも意欲的である。

上位グループと下位グループとの差は比較的小さいが、全科目平均値より低い数値の質問項目が多くなってしまった。質問15「授業を理解できたか」、質問16「興味・関心・意欲を引き出した」に関して、下位グループの数値が3.0と低いのは、下位グループとされている1名が「どちらともいえない」と回答したため、このような結果になったようだ。クラスの中で、互いに意見を交換し合って課題を決め、グループを決定したのであるが、グループ活動がそれほどうまくいかなかったとも言える。

中間発表・最終発表と2度の全体発表を行う本科目においては、受講態度は他の科目にまして意欲的であると考えていたが、結果からみると、全科目平均値よりもやや低い。互いの意見を交換し、深めていくような活動にはならなかったのか。一方、質問18「授業に真面目に取り組んだか」、質問21「予習・復習をおこなったか」の数値がやや高めであるのは、グループ課題について各自が真摯に取り組み、調べた内容を持ち寄って授業に臨んだことを示している。しかし、それは時として義務的なものになり、自らの意欲によるものではなかつたのかもしれない。

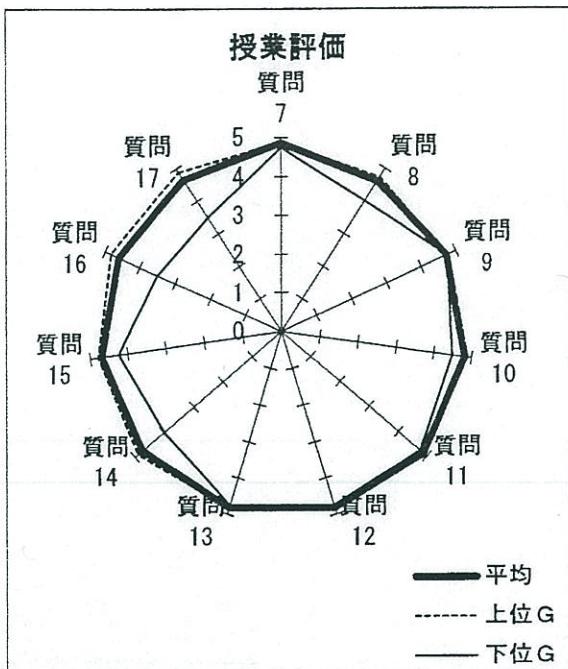
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：社会を読み、他者と向き合うためにB

グループ内での課題の選定と参加グループの決定以外には、学生の話し合いには積極的には加わらず、外からアドバイスをするにとどめてきたが、次年度は調査や分析方法についてもう少し関与しようと考えている。全体発表が目的化しているところがあるので、互いの考えを深める時間を取り、クラス内での意見交換の時間を持ちたい。

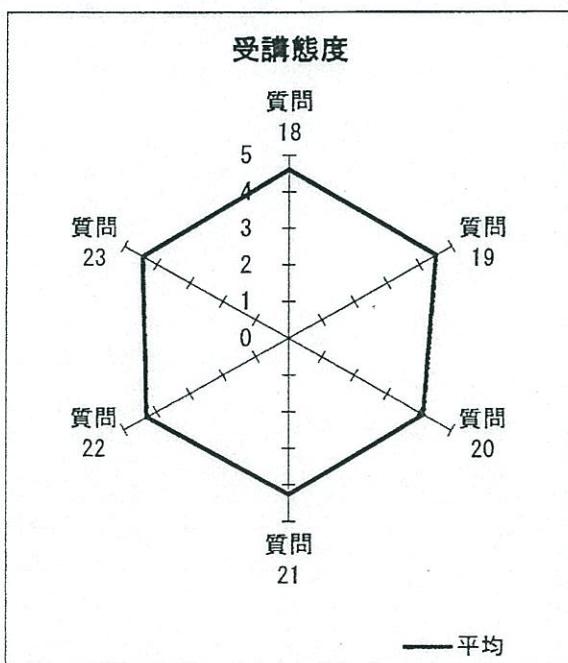
科目コード 210 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 常吉 幸子 演劇文化



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	4.8
質問 8	4.6	4.7	4.0
質問 9	4.7	4.7	4.8
質問 10	4.8	4.9	4.5
質問 11	4.9	4.9	4.8
質問 12	4.8	4.8	4.8
質問 13	4.8	4.8	4.8
質問 14	4.7	4.9	4.0
質問 15	4.7	4.8	4.3
質問 16	4.6	4.8	3.5
質問 17	4.7	4.9	3.5
平均	4.8	4.8	4.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問 10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問 11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問 12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問 13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問 14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問 15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問 16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問 17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問 18	4.6
質問 19	4.5
質問 20	4.1
質問 21	4.3
質問 22	4.3
質問 23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	常吉幸子	演劇文化	26

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今年度のこのクラスは、留学生が多いのが特徴である。成績評価がテストなのだが、数年来、PPTで講義内容をつくってしまっている。古代から歌舞伎・浄瑠璃までの日本の演劇・芸能の歴史をたどる、通史的講義なのだが、世俗権力と庶民の関係、経済と言ったことがらにも言及し、わりとパースペクティブのひらけた内容になっていると思う。

今年度は、とくに、留学生が多いということで、単位取得試験対策に力を入れた。例年に比較すると、順調にシラバス通りに進んだので最終回を試験のための「まとめ」に使うことが出来たのだ。ただ、そういう「単位取得試験対策」のようなものに力を入れた場合、これが初めてではないのだが、試験の得点が、全体として高くなる。ただし、一方で、通例抜群に高得点をとるような学生の得点が伸び悩む、といったことが起こる。

ある程度ほおっておいて、勝手に勉強しなさい、といったほうが、学生の自発的な学習・理解には資するところがあるのではないか。ただし、こんかい学生の授業への評価が総じて高かったのは、その「試験対策」への評価であるともいえるかもしれない。悩ましいところである。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：演劇文化・文化研究入門

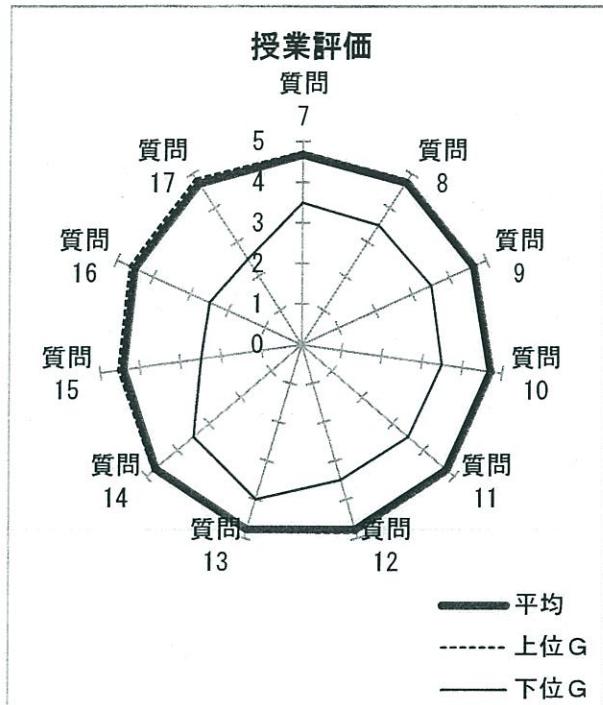
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

私は、演劇文化・出版文化といった、日本文化関係の講義を担当しているが、あと数年でカリキュラムから消える予定である。代わりに「文化研究入門」が新科目としてはやってくる。この二科目のほかに、文化関係の講義のメニューとしては、より総合的な「文化史」と「サブカルチャー論」を、教育資源としては、既にもっている。これらを、より集約して洗練していくかたちで、あらたな講義を組み立てていく必要がある。

科目コード 228 (2018年度 前期)

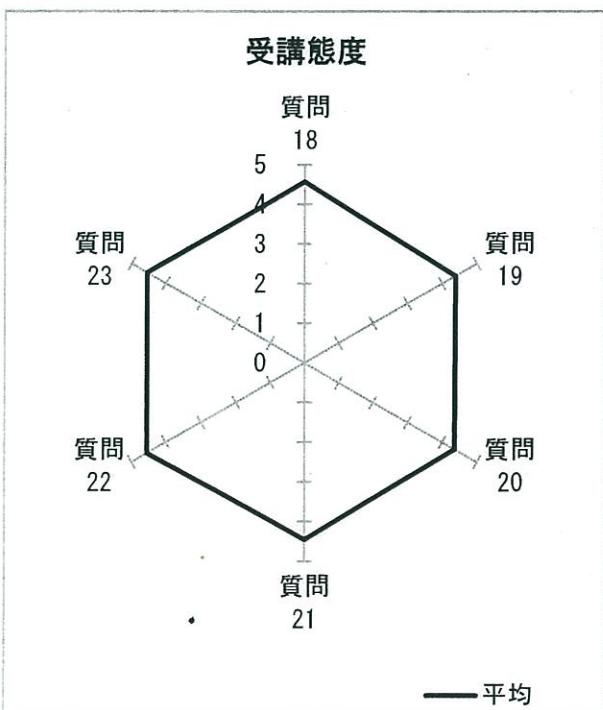
国際文化・文学部 日本文化学科

渡辺 誠治 日本語音声学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	3.5
質問 8	4.7	4.8	3.5
質問 9	4.6	4.7	3.5
質問10	4.7	4.8	3.5
質問11	4.7	4.8	3.5
質問12	4.8	4.9	3.5
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.7	4.8	3.5
質問15	4.4	4.6	2.5
質問16	4.5	4.7	2.5
質問17	4.7	4.9	2.5
平均	4.7	4.8	3.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.4
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	渡辺 誠治	日本語音声学	30

I. 分析と評価

この授業では日本語の音声についての概要を理解し一定の分析ができるために必要な音声に関する基本的な概念を幅広く紹介した。音声に関する基本概念は理系的な印象もあるので学生にとっては取っつきにくい面も多かったと思うが、授業に対する評価ポイントは総じて高かった。昨年は、上位層下位層ともに評価が高かったが、今年度は下位層の評価が相対的に低い。これは、専門科目として適切な結果と受け止めている。

この授業は今年度からの担当であり、PPTの準備等まだ完成していない点が多々ある。今年度の休暇期間中に準備を深めたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 音声学

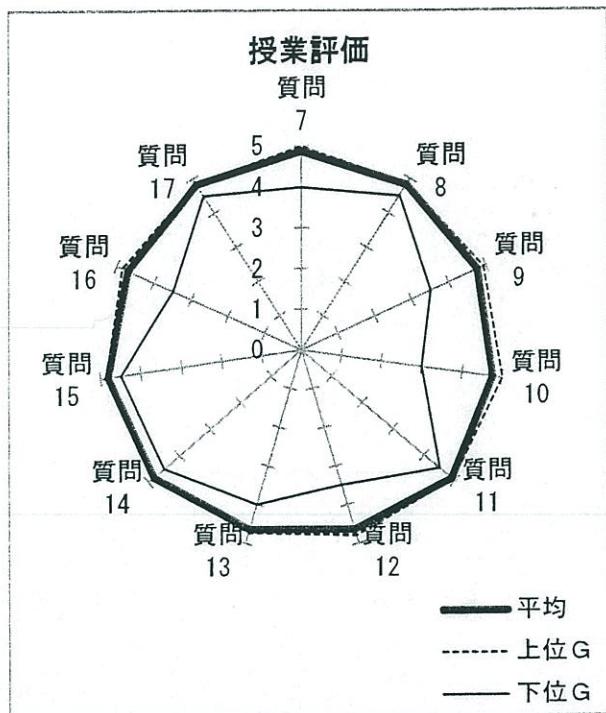
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

興味を引きつつ専門的概念を導入できた点はよかったです、概念の整理整頓の余地はまだまだある。概念の整理と、その教材化に取り組みたい。

また、概念（理論）を説明するための、身近な用例の収集に努め、興味を喚起しつつ、その背後にある規則性や説明のための概念の理解を促進するよう工夫したい。

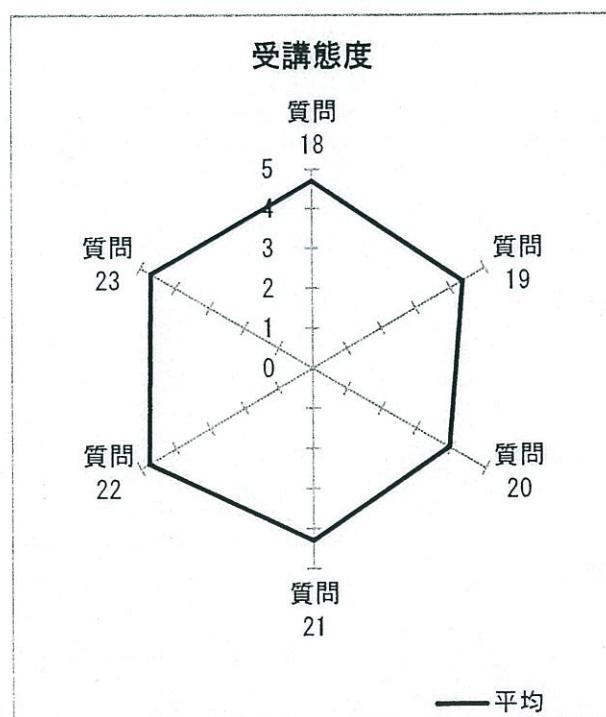
科目コード 230 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 石田 陽介 アートマネジメント論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	5.0	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.5
質問 9	4.8	4.9	3.5
質問10	4.8	5.0	3.0
質問11	4.9	4.9	4.5
質問12	4.6	4.8	3.5
質問13	4.6	4.7	4.0
質問14	4.8	4.9	4.5
質問15	4.8	4.9	4.5
質問16	4.7	4.9	3.5
質問17	4.8	4.9	4.5
平均	4.8	4.9	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.4
質問20	3.9
質問21	4.3
質問22	4.8
質問23	4.7
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	石田陽介	アートマネジメント論	21

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「全実施科目平均値」と比較すると、概ね平均値が上回っており、「授業評価」並びに「受講態度」共に、一定の評価を得たことが分かりました。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：アートマネジメント論

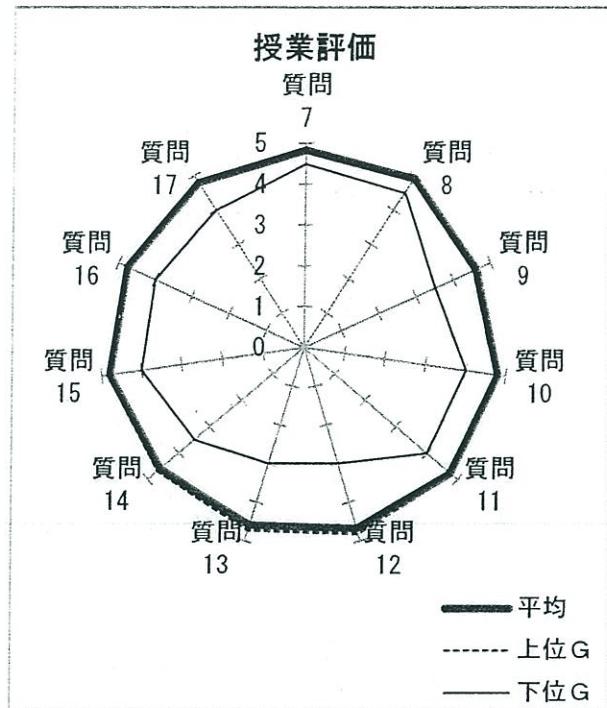
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

「全実施科目平均値」と比較すると、概ね平均値が上回っていることを鑑み、2018年度の基本的なスタンスを2019年度においても踏襲する形で、進めていきたいと考えます。

その中で、質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」は平均4.8点と高かったものの、上位Gの5.0点に対して下位Gの3.0点と分かれたので、このことの意味に留意しながら2019年度は進めていきたいと考えます。

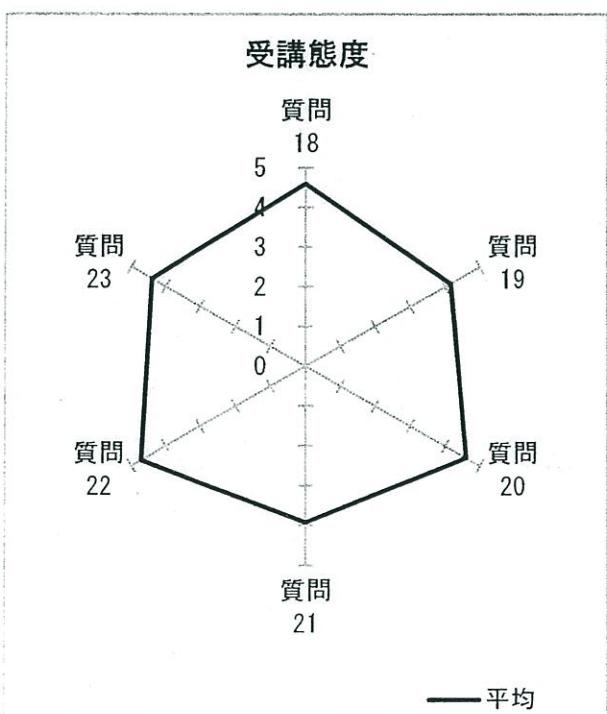
科目コード 231 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 石田 陽介 都市デザイン論



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.9	4.5
質問 8	4.9	5.0	4.5
質問 9	4.6	4.7	3.5
質問10	4.8	4.9	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.7	4.8	3.0
質問13	4.6	4.7	3.0
質問14	4.6	4.7	3.5
質問15	4.8	4.9	4.0
質問16	4.8	4.8	4.0
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.7	4.8	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.2
質問20	4.6
質問21	3.9
質問22	4.7
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	石田陽介	都市デザイン論	26

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「全実施科目平均値」と比較すると、概ね平均値が上回っており、「授業評価」並びに「受講態度」共に、一定の評価を得たことが分かりました。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：都市デザイン論

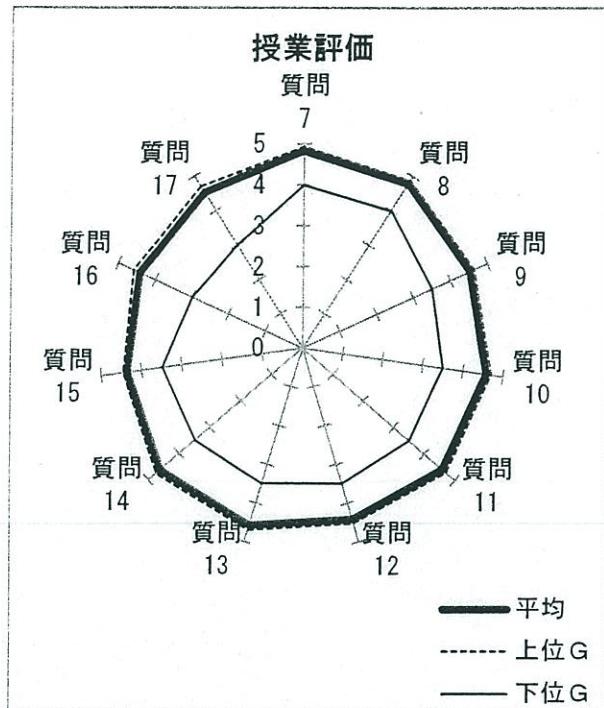
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

「全実施科目平均値」と比較すると、概ね平均値並みか、少し上回っていることを鑑み、2018年度の基本的なスタンスを2019年度においても踏襲する形で、進めていきたいと考えます。

その中で、質問9「教員の話し方」は平均4.6点であったが、上位Gの4.7点に対して下位Gの3.5点と分かれたので、このことの意味に留意しながら2019年度は進めていきたいと考えます。

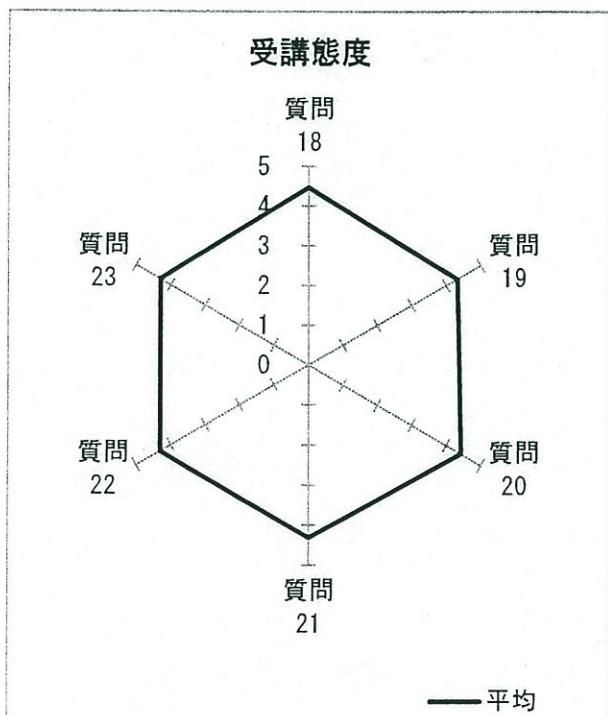
科目コード 245 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 田浦 知子 情報資源組織演習Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.5	4.6	3.5
質問10	4.6	4.7	3.5
質問11	4.6	4.7	3.5
質問12	4.4	4.5	3.5
質問13	4.6	4.7	3.5
質問14	4.6	4.8	3.5
質問15	4.4	4.5	3.5
質問16	4.4	4.6	3.0
質問17	4.5	4.7	3.0
平均	4.6	4.7	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.4
質問21	4.3
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	田浦 知子	情報資源組織演習Ⅱ	20

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

図書館サービスの基礎となる技術的なことを修得する課程です。

理論的な内容ではないので、学生間の理解の差が明確になりやすい課程でもあります。

2016年のアンケートと比較すると下位グループの評価が低下しています。

アンケートとは別に

学生の意見を聞きますと、途中で理解できなくなったとの声をきました。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：情報資源組織演習Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

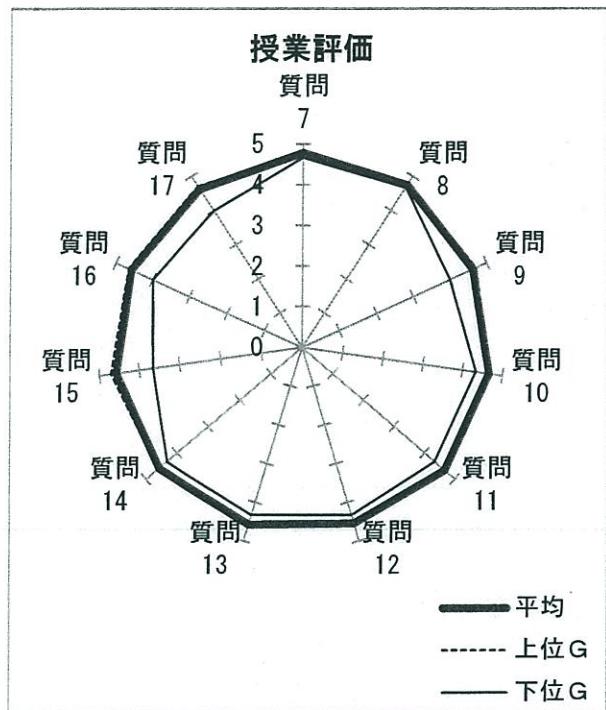
2016年度のアンケートと比較すると上位 下位グループの差が開いてしまったので

理解が困難な学生への個別の指導を検討したいと思います。

科目コード 250 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科

田中 俊廣 近現代文学講義 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.7
質問 8	4.8	4.8	4.7
質問 9	4.6	4.7	4.0
質問10	4.7	4.7	4.3
質問11	4.7	4.7	4.3
質問12	4.5	4.6	4.3
質問13	4.6	4.6	4.3
質問14	4.6	4.6	4.3
質問15	4.6	4.7	3.7
質問16	4.6	4.7	4.0
質問17	4.6	4.7	4.0
平均	4.6	4.7	4.2

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

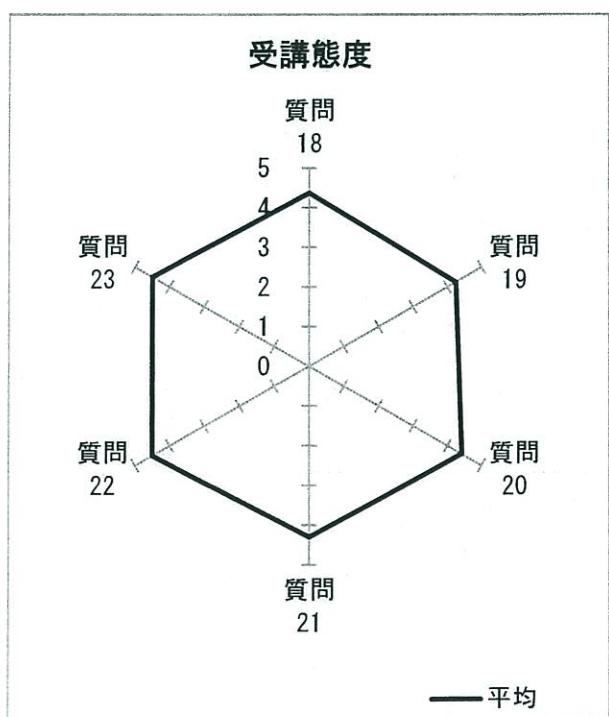
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	4.4
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.4

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化・文学部	日本文化学科	田中 俊廣	近現代文学講義 I	26名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

2年生から受講できる近現代文学の最初の講義として、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治を紹介し、読解している。日本の小説家として最もポピュラーで、そして基本的に踏まえてほしいと思っているからである。授業評価アンケートの下位Gで、授業を理解できたか、興味・関心・意欲を引き出したかなど数値が低めであったのは、授業者側が思っているほど、学生には知識や関心が薄いのかもしれない。

II. 2019年度に向けての取り組み

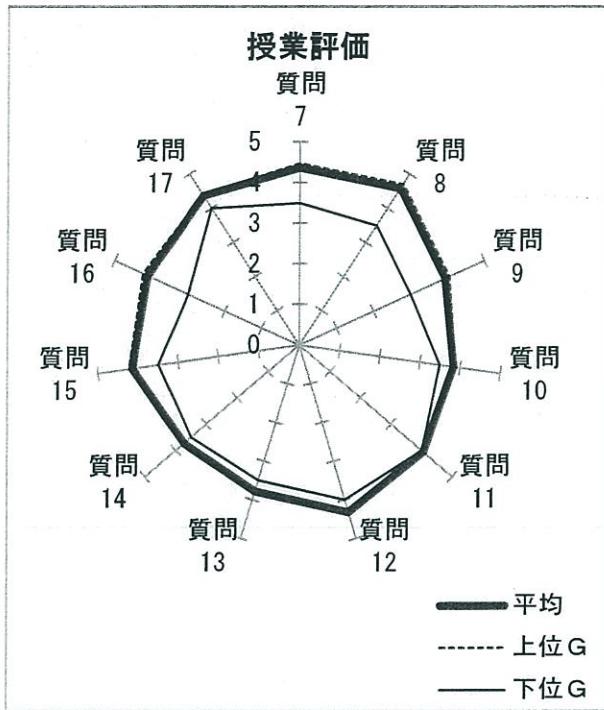
2019年度担当予定科目名：近現代文学講義 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

漱石、芥川、太宰の作品や人物像には暗いイメージがつきまとう。しかし、それは私達が生きる中で、大なり小なり逢着する困難さや問題であり、それをいかに超えるかが彼らの作品にはモチーフとして潜在している。これらに興味を持ち、読解することの充実感を抱いてもらうよう、導入やアプローチの方法を考え直してみたい。

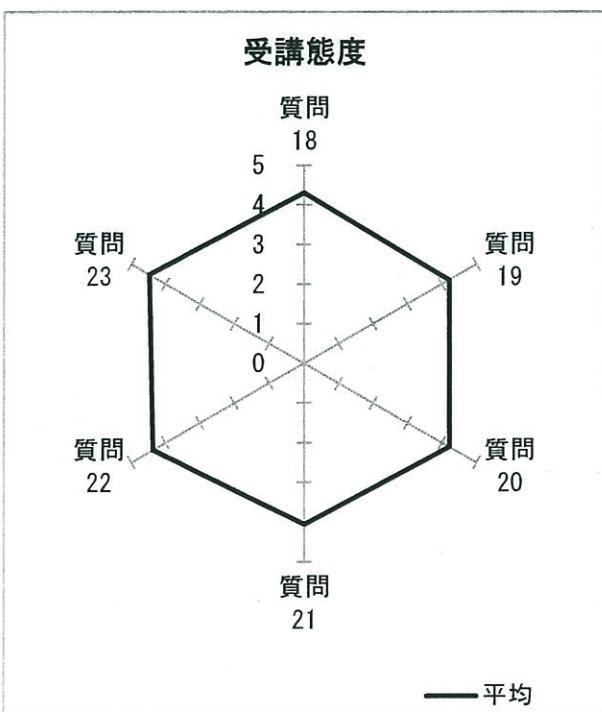
科目コード 255 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 長尾 博 精神保健学 I・臨床心理学a



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.4	4.5	3.5
質問 8	4.6	4.7	3.5
質問 9	3.9	4.1	3.0
質問10	3.8	3.9	3.5
質問11	4.1	4.1	4.0
質問12	4.3	4.4	4.0
質問13	3.8	3.8	3.5
質問14	3.7	3.8	3.5
質問15	4.2	4.2	3.5
質問16	4.1	4.2	3.0
質問17	4.4	4.4	4.0
平均	4.1	4.2	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.2
質問20	4.2
質問21	4.1
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	長尾 博	精神保健学 I・臨床心理学 a	17名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業への関心の低さ、質問の機会の少なさ、学生の理解度の確認という基本評定度が低い。

II. 2019年度に向けての取り組み

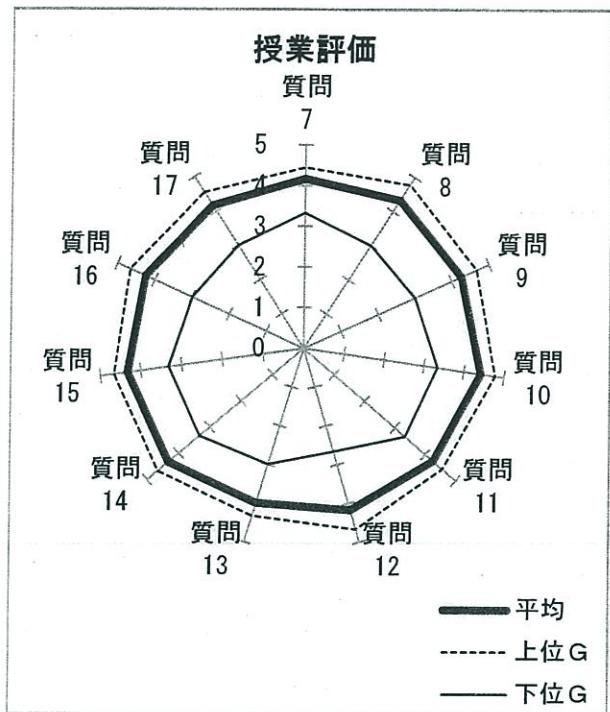
2019年度担当予定科目名：精神保健学 I・臨床心理学 a

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

人間関係学科の場合、以前のように「臨床心理士」になりたいために受講する学生も少なく、音楽学部の場合も以前のように「音楽療法士」になりたい学生も減っているため、この科目の授業の進め方も一般企業へ入社に向けてか、主婦、母となるための授業内容に変えていきたい。

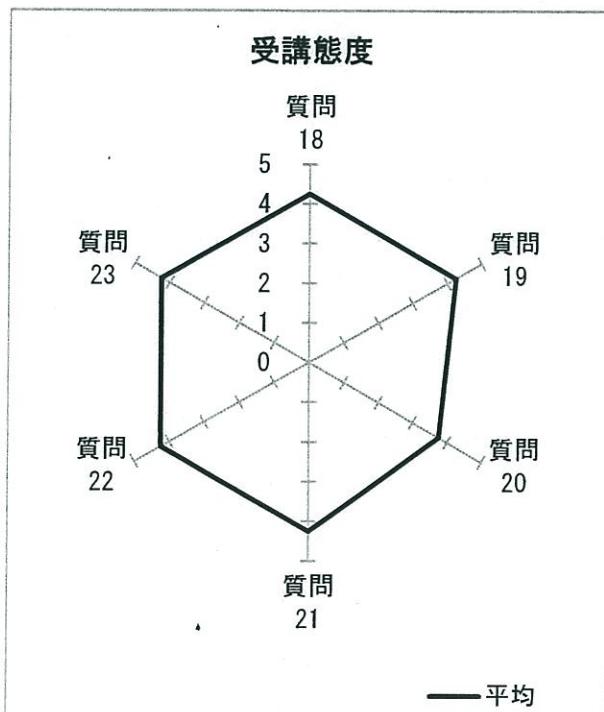
科目コード 256 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 長尾 博 心理療法基礎演習 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.4	3.3
質問 8	4.3	4.8	3.0
質問 9	4.3	4.7	3.0
質問10	4.4	4.8	3.3
質問11	4.3	4.6	3.3
質問12	4.2	4.7	2.7
質問13	4.0	4.3	3.0
質問14	4.3	4.7	3.3
質問15	4.3	4.7	3.3
質問16	4.3	4.7	3.0
質問17	4.2	4.6	3.0
平均	4.2	4.6	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.3
質問20	3.8
質問21	4.3
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	長尾 博	心理療法基礎演習 I	9名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

学生の授業態度を自由にしているのが悪いのか、もっと厳しくしてほしいのか迷う点がある。
授業への関心の乏しさや質問機会を設けているが質問は特にない。

II. 2019年度に向けての取り組み

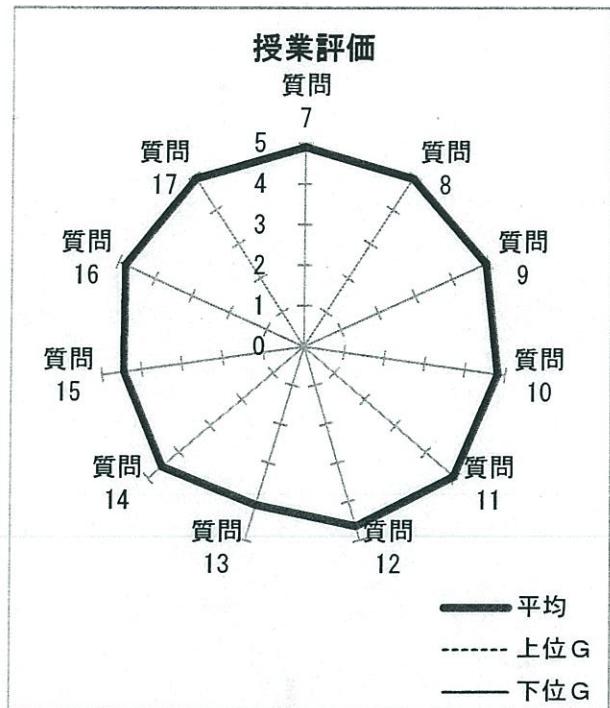
2019年度担当予定科目名：心理療法基礎演習 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

以前のこの学科では「臨床心理士」になりたいためにこの科目は活気があったが、この科目のワークについてその動機づけは「自分を知るため」にあり、そのような学生が少ないために情報操作の技術に価値をおく学生にこの科目に関心をもたせるために将来の目的に向けた人生目標とかかわる授業内容にしたい。

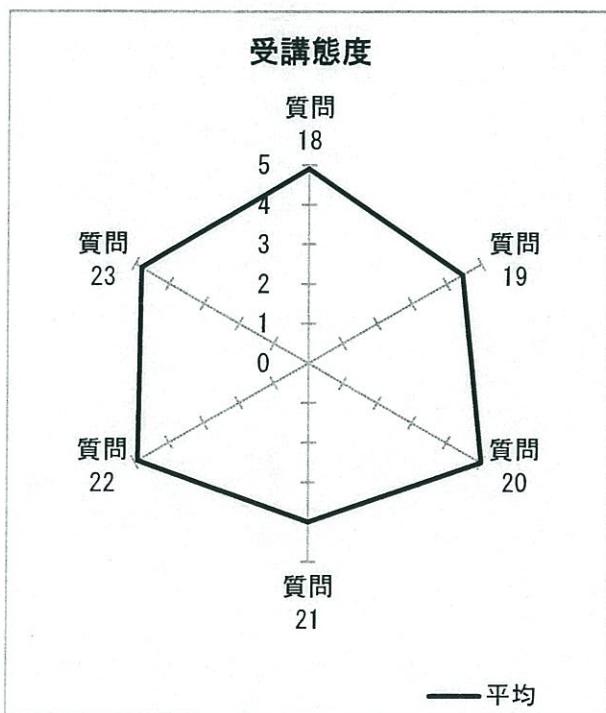
科目コード 257 (2018年度 前期)

国際文化・文学部 日本文化学科 原田 拓馬 教育課程論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	4.1	4.1	#DIV/0!
質問14	4.5	4.5	#DIV/0!
質問15	4.5	4.5	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.5
質問20	5.0
質問21	4.0
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
国際文化学部	日本文化学科	原田拓馬	教育課程論	11名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価及び受講態度について概ね良い評価を得たといえる。ただし、「質問機会の確保と質問への適切な対応」「授業の予習・復習をおこなったか」の項目で低く評価された点に、授業改善の余地を見出すことができる。

「質問機会の確保と質問への適切な対応」について、毎回の授業終了時に提出を求める課題として、受講者には授業への質問や感想を自由に書いてもらう一般的なアクションペーパーではなく、授業理解度を授業者の用意した問題への解答によって確認するミニレポートを課していた。このことが受講者に質問機会を十分に提供できていなかった一因と考えられる。

また、「授業の予習・復習をおこなったか」について、予習・復習の内容・方法を、受講者に対して毎回明確に指示できているわけではなかった。受講者の授業理解度をより高めようという意識をさらに強くもつべきであったと反省している。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：教育課程論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2019年度の同科目では、質問機会を確保するためにミニレポートを適切に設計し直し、また、いつも質問しやすい授業づくりにさらに努めたい。予習・復習についても、毎回の授業でその内容・方法を明確に指示し、受講者の授業理解度を高めるように努めたい。